



Title	東洋大学大学院修士課程 S37年度
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77373">http://hdl.handle.net/2115/77373</a>
Type	manuscript
File Information	N031_01S37.pdf



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK

東洋大学大学院  
修士過程

昭和三十七年度

IS  
F  
40

U.S.





九種に手はかけない  
 同題を扱ふ

本年の請義の特色は、先づ  
 研究に必要の文直接に應じ  
 べき研究の研習の利便を以て  
 するの請義をすべし。家族、  
 村落、都市、口民社会学の四の  
 科の組の何れに属し得るか  
 先づ見定むべき事。  
 時に演習として学生の研究  
 を発表せしむべき。それによつて  
 社会学的的世区との区別を  
 明かにせしめ、最初は四分科  
 の別次に、次に九種の何れに

社会学上の意味の説明。

学生の希望に應ず。研究の請  
 義をしたるが、先づ学生の希望  
 研究の事項の説明を聞く。

四種の科組とは

1. 家族
  2. 村落
  3. 都市
  4. 口民社会学
- 九種の中核とは

1. 統治
  2. 保安
- 法、福利事業



私自身かやりたと思つて、又はやらせよう  
研究の標本が一番法尺のめい

琉球の家族の同じは双系制の區及は寧ろ社会人類の  
多量な同じ現時の意識に重きを置くべきでは琉球でも  
夫帝家族になりつゝあつてはなつか同じであらう。  
老人の同じ  
社会の正統の正統の区及は寧ろ社会人類の  
家族の区及は正統の区及は寧ろ社会人類の

五月一日

四の枠組におおむね現在興味多しと思はれ  
同じについて満義(五十四年分と同様)

私自身か

一、家族

正統の区及は寧ろ社会人類の  
夫帝家族になりつゝあつてはなつか同じであらう。  
二、家族の日本宗族の周知  
の作制が、家族構成図式の作制が  
都市におおむね居住形式の作制が、同居形  
式の区及、同財形式の区及、宗族修の作制が、  
行政界隈かこころを、二つ、二つ、二つ、  
集団界隈作制とこの自然村

二、村落

三、都市 - 新文化製造場としての首都とそこ  
にはある力の類別

都市の二つの階層 (都市の二つの階層)  
(交通発達の間接)

四、市民社会 - 市民社会における協力の  
名称

五、法論

時子的秩序の発展  
正統の法理論の発展  
現在の時と来しと  
家族中心社会より職場中心社会へ

第一 家族の団結  
現在我々の死後の世界には希望と未来

にもその心をこめて  
日本の家族の発展に  
努力のすべを述べよう

一、直系家族より夫婦家族への移行の過程

の可成り早いものがある。これは農村部にも都市部にも

おなじく見られる。これは、夫婦家族の増加を示している

その外、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、

たうたう、家族の形態は、多岐にわたる。これは、

夫婦家族の増加を示している。これは、



ついでに  
中口の農家の家族——小学校より  
共同生活

五月十五日

字句は概念の整理法則の玩見

原理として常型と  
法則の整理法

の玩見

シニグとツシシにフちかゝハラ

- 一、時子  
乙常型
- 二、空  
乙同常型



同種家族



直系家族



夫婦家族

時子的進行可能

力三清

沖縄の山のりまのりまの

夫婦家族の周期国型作製

家族の正常型と異常型の国式

(これは直系家族とい夫婦家族  
にも考えられぬ)

乙都市生活理論と都市政策

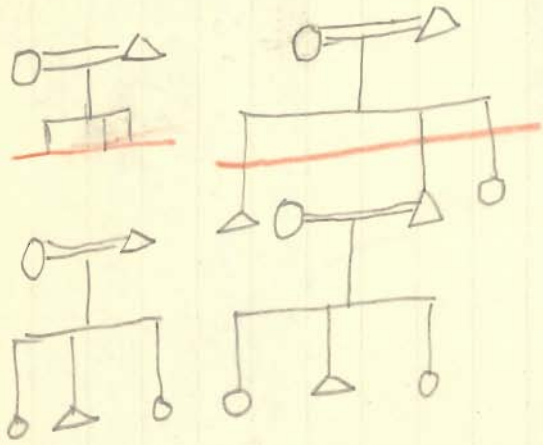
居住団体と家族型の転化

東洋のかり〜家族型の転化の理論

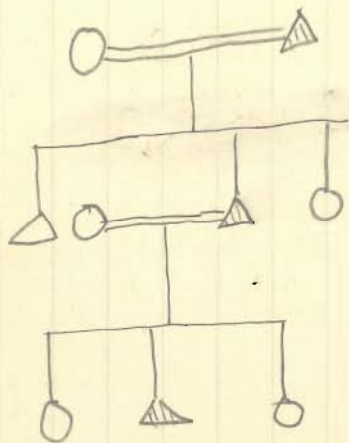
五〇子

平均数は現実には存しないが、数学的操  
作による作り出されたこの数は、  
虚数操作の上の重宝を概念として  
多正常型と多異常型も平均数と同じく  
科学的操作の上の重宝を概念として

直系家族より夫婦家族へ

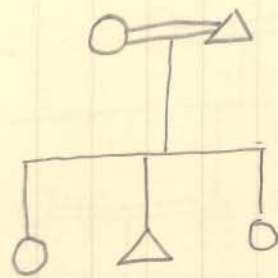


直系家族型



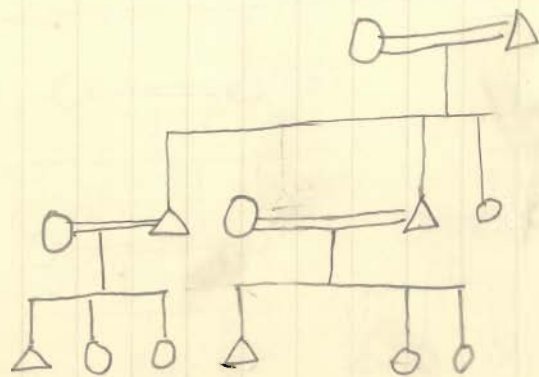
夫婦家族

才<sup>四</sup>清 家族構成の同式化  
 (正常型。同式化)



同族家族

(1) 基本型

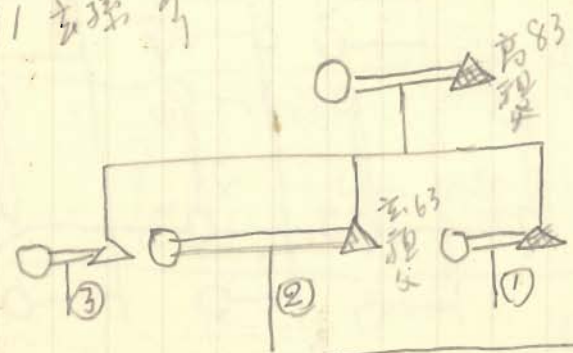


$18 \times 3 = 54$   
 $(6+6) \times 3 = 36$   
 子妻  $9+9 = 18$   
 $3+3 = 6$   
 $1+1 = 2$

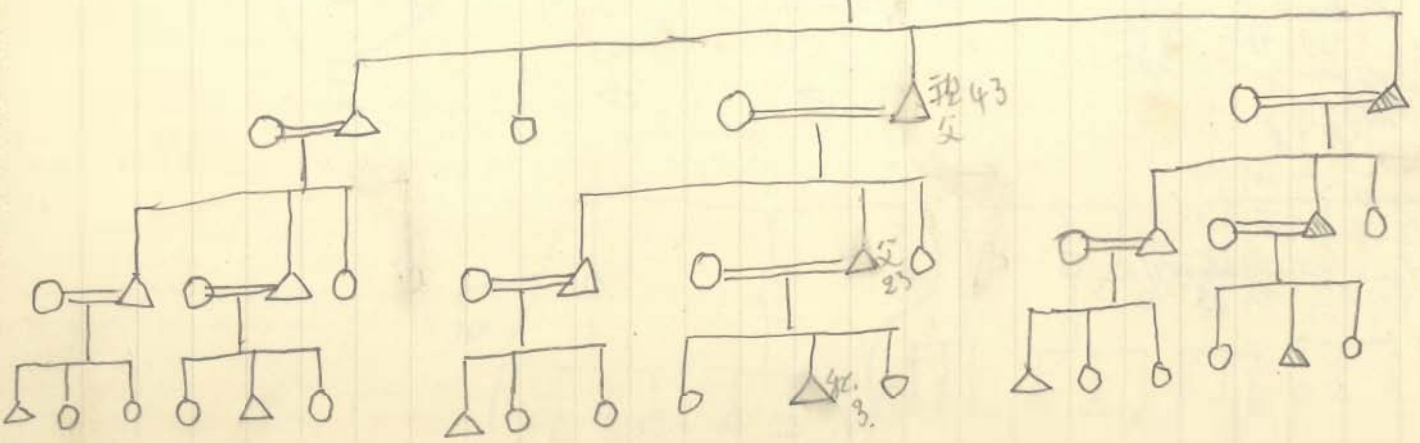
$$\begin{array}{r} 11 \\ + \\ 110 \\ \hline \end{array}$$

高祖  
 男3子  
 男3子  
 男2子  
 男1子  
 女2子  
 女1子

(2) 同族宗族  
 長宗族  
 中宗族



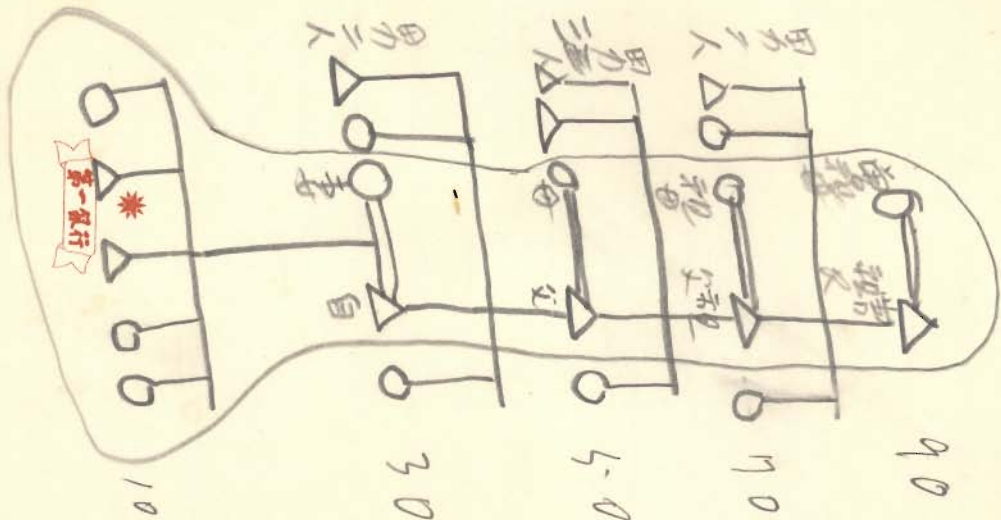
男1女1  
 子3人妻3人



9人妻9人  
 18人妻18人  
 子18人妻36人



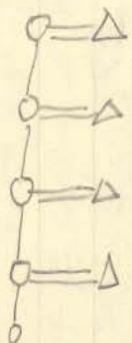
夫婦不族ノ人



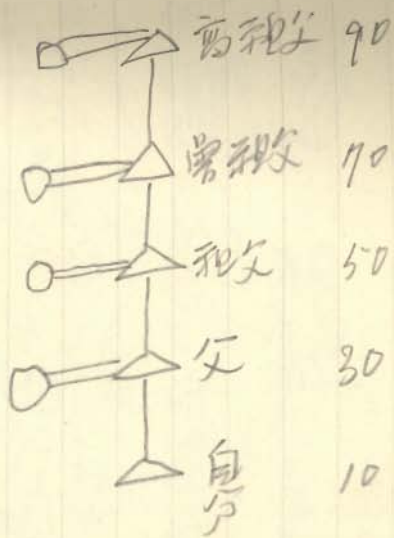
三六  
親親  
子子  
のの  
血血  
統統  
姻姻  
族族  
配  
偶  
云

一親族

妻 女 嫁 族  
母 親 族  
親 母 族  
常 親 母 族



父系は縦に母系は  
母系は世代毎に異なり  
司の母子。



六月五日  
平本





鏡鏡文化一移化  
玉候文化但性豊重

人生の大覺地神 大家生活の安んじと仁徳

生きたていつか死なすよの事。死は不昧なる  
はさけよの事。死にまさよ其れし死はたご  
かう生きたていつか死なすよの事。其れかあふかう生きた  
の事。政治も職場も其れを指してくわ  
と思はれよかう生きたて大事に思ふの事。

五二ねかろの都市生活の方向

夫夫婦家族と職場  
夫成婦家族の職場  
未成婦家族の職場  
老人の病家管理

同居関係と

一人の一生

政治は何故に生きたるか 何の為の職場か

生きたるの職場から 職場の  
の生活へ  
生きたるの政治から 政治の  
の生活へ

人間の交着必要の時期

五月二十九日

六月十七日  
五々





※

マクスウェルは日本は資本主義の全

體は日本の。より先にとりて。明治

前のは日本である。武士の教養は資本主義

的令體は多力である。中口の文人統治

に。印の宗廟を祀るの。世世資本主義

の令體は存在である。然し。宗廟

は日本にだけ。直子宗族に。訓練が

如何に。宗廟的精神に。あつた。

を知つた。直子宗族に。宗廟は無限

の統。宗廟の。財と宗廟の。精神

を。宗廟の。宗廟の。宗廟の。宗廟の

を。宗廟の。宗廟の。宗廟の。宗廟の

を。宗廟の。宗廟の。宗廟の。宗廟の

才六講 家と家本位制

より戰場本位制へ

家の概念 (行か基準としての)

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの

一 家は無限に存続するもの



将来の傾向

二、以下七までの各項目の職場又は  
は口家記等の官職下におおむか  
れて行く傾向にある。  
家族は一の機能文の為に  
存在理由がつかなくもとのと考  
え、これよの七は右の如く存在  
理由の山とに挿として認めら  
れる。

農林  
家の機能

- 一、物産充足の機能及び生殖の機能
- 二、生産消費共同関係としての機能
- 三、老幼病弱を保護揚育としての機能
- 四、教育揚育としての機能
- 五、教団としての機能
- 六、娯楽任務の機能としての機能
- 七、株其他社会的権利義務の責任  
としての機能

六月廿九日

「農村の現況」における家族について  
この譯本と要諦成立者の  
手書

第七講

家族本位制より職場本位制へ  
家族本位制記号

一 祖先崇拜に因する信仰と慣行

二 家族生活を理想とする生活の類型

とす。思想及び慣習

三 男尊女卑の思想 三従の倫理

四 家族を社会生活の単位とす。慣習

及び制度

五 家の社会的地位を他人評價に

考慮す。慣行及び制度

六 結婚式の習慣及び新婚に因す。

法律

七 宗祧継承保障即長子の制度

八 絶家を防止す。為の慣習及び法律。

家か先業の団体であり先業の団体であり  
 右。他人の先業はどの家の先業にか  
 加へて加へて有り得ぬ。男も女も他の  
 家毎に心算にあり先業の力に成りしへ先業の  
 組織を造つてゐたか。

(九) 家の先業の発展に奉仕するものとしての  
 他人の徳徳のみが評價されるべき

(九) 道義的縁座の目的の認めらるべき

(十)

離婚した世の帰属する先業におけ  
 る御女の徳徳は家出より先業の  
 発展のためには必要とせしむべき  
 し先業に帰属するは目的にも非  
 ずし先業の発展に資するべきか

今の夫婦の先業の結合は家出と  
 大抵は別と云ふべきか。兄弟夫婦の  
 先業の結合は不可成りか。

古い日本では婦人の先業は殆どな  
 かつた。それが弱かつたのはその為。

十一 支那のテニシとは日本夫人の先業除外、

何れも男物の女性占有のみ。

十二 家か先業の男子は、人はどの家にか  
 所属してゐるか。結婚の先業から別

家へ。



# 戦場本位制

元々は戦場をどう見ているか

1. 管轄を去れば人は当然に戦場に行く可  
さよと推し進めたい。
2. 大才を戦場程安全で有利な生  
活を保障すると思はれる。
3. 人の死を免れたい。戦場は死の地  
に多い。評定は戦場の安全が多い。
4. 生かすは他人界。戦場は他人界  
に考え、戦場を去る。
5. 大名は大名が割居して封建時代  
の幕府大才の戦場は天下に割  
居し、戦場に居た者は人ではない  
に思っている。社会である。

世人が

職場の内の生活

1. 他人の能力のみに応じて採用

2. 実力に応じて地位

3. 職場の業務本位に決定される職員の

勝手な配置 兼任

4. 地位に応じての勤務規定給与組織

5. 待遇の下の勤務評定

6. 勤務の底に報酬と賞与は

7. 職場の地位の上下と支配関係

8. 人を生活用具として考えよ考えよ

9. 人を生活用具として利用し金と交換す (原則)

10. 富の分配は寡者としての人間の相互利用の社会と見よ社会制度

職場と家族の現代型

1. 結婚した女の帰る家族内の役割は  
たゞとしか職場とパートが彼女の為  
に生活の席をもちけるい

2. 結婚しやすい社会

3. 親夫婦との別居を希望する部  
じらしい女性

職場本位制社会の特性を挙げる

1. 個人単位社会

2. 相互利用社会

3. カラオケの社会

4. 勤め次第の社会

5. 強いつきあいの社会

1 金の世の中

7 現金文化

(含現金文化非伝統文化)

8 其場勝員

9 幸福なものの本位の世の中

10 幸福が集中する世の中

(階級分限の世の中)

11 不幸も集中する世の中

12 合理化しつつある世の中

### 過渡的現象

1. 縁故者の地位・重役世帯の世襲化

2. 縁故関係の活用

3. 職員系族の不幸への職場の援助

4. 中流層の親が大方の就職希望を  
100%に保つておく

的 底 座 子 自 身 は し っ と ト ラ イ

封 建 的 社 会 国 体 の 近 代 化

の 本 の 能 力 あり 親 分 子 分 関 係 の 強 靱  
な 存 続 力

底 座

資 本 財 力 の 代 身 者  
僱 用 の 保 護 者  
人 の 紹 介 者  
村 郷 の 接 触

支 配 仁 義 的 拘 束 ( 義 理 )

命 令 権 力 の 力 と 暴 力 の 力

( 六 月 二 十 六 日 )

後期

用請第一回

請書内容

冲縄の両方には口民部等は意如  
々といふは。福田氏は福文執  
事の手紙の必要。相法には自覚  
又は為れに。

(十月二日)

同質的國家  
一民族一國家

⊕ 平均型の場合にも上の階層の人と下の階層の人による統治され方は一様でない（例：江戸、町屋研納控と前代徳市民の納税）江戸島

（中心直線の例）

予備、一江の島の場合、自治体令の実務、方面長

員、役場の定は役員（P、ハイとある）一業端  
中心の例

その他國家の物事による苦しみ場合の定例はこれ  
ほどである

※ 國家は社会文化として存在し、他人は  
「あつて居しあそ木下張りのもの、七ほしてし又かあそ  
と見はれしもの」

國家の存在理由は國家を有する一人々又は有  
し無いに依り、情熱のあ、人の生活を是れ、國家存  
在が人同生活に望まされるものであ、か不いか、何故に  
國家が文化かある。あつて、現由が前よりか、  
あつて、人の生活を、維持存続の爲に中絶な  
るを、維持し、この國家の存在理由を述べた。

才二回

和の國家文化研究の主要問題

一 國家統治体系の究明

統治体系の  
一 統治過程としての政治

各種の國民の政治的見解  
平均型の場合、皇權の政治  
下種別文化別、思想別

宗敎別、特殊な行政地域

若神敎から、中央に及ぶ敎育

事例、一江の島の場合、定例及び  
官僚制外周の統治構造  
統治体系の

社會文化としての政治

現在の統治機構、法制史、

國家起源論、統治文化は他國

的である。

政治を中心に  
研究

社会文化主義の口宗を宗教的の爲に  
最高権威の人同組織として理想化して来  
たギリシヤの形而上学的口宗物に對して  
批判的になつた。自由法理論の二つに  
P. 強き正義感と苦しい法が、  
政治的、道徳的、宗教的、社会的、経済的  
（シトマ）の各口宗を分ち、  
官制の理論を優成たより、  
官制の地位に不足してゐた。

統治活動の  
中央より出ルル及不平等





論議し權利も地位も

大分は

のみ。  
故に博士過程の卒業の乳職その他に  
別に卒業するや否やすちのものではな  
過(程)を以てし何の妨と云ふもな  
かからざる先生の自由の能く  
充分につけると人々も自由を  
此習学のための便を求むるは  
是の二はなすべし。教授はよ  
すよ専らをしめしんべし。た  
たし